

平均年齢 87, 4 歳、86 歳以上が 20 名中 15 名という構成メンバーの皆さんが虹の家をご利用いただき「あゝ今日は楽しかった!」と思っただけのような通いをどう作り上げていくことができるのか? どの人もポックリいきたいと望まれるような老いへの道のりを穏やかに一緒に寄り添っていきたいと私たちは念じております。あの人、この人と皆さんの顔を思いながらどんな一年間を組み立てていったらいいのだろう? とスタッフと共に何度も検討を重ねております。加齢と共に医療との連携が必要になっている方もおり、介護と医療が一体になって、どう老いを支えていくのかが問われています。

在宅介護ではご家族の皆さん(同居・別居を含め)との連携も必要条件になってきます。ご本人を中心にして家族・医療関係者・介護関係者・市の相談機関、そして地域の方々とのつながりを視野に入れたサービスのあり方を今後も模索していきたいと思っています。また、この新木野で「新木野高齢者見守りネットワーク」がようやく始動する運びになり、虹の家もその運営委員として活動してきました。この活動を今後も推進して、住みやすい安心な新木野にしたいと思っています。

尚、5 月より月 2 回の日曜日に「サンデーたまりば虹」を開催します。11 時~15 時、昼食提供(限定 20 食位、実費徴収)もあって、地域の「たまりば」になってくれればと願っています。

虹の家の昼食は事前の献立表はなく、調理員さんのご苦勞で、旬のものを生かした手作りで皆さんから大変好評をいただいています。以前よりご家族から夕食のメニューを考える時「昼食に何食べたの?」と聞いてもご本人は全く忘れていて話にならないと伺っていました。それで、ご自分で昼食メニューを書いてもらおうということになりました。午後の活動の中に虹の家ノートの記入を組み入れてみました。

- ① 昼食に食べたものを思い出す。(脳の活性化) 食事中からこっそりメモをとる人もいます。
- ② 字を書く。(ほとんど字を書かなくなっているので)
- ③ ご家族が昼食の献立がわかる。

これら一石三鳥に加え、今日一日の感想欄をつけ加えたところ皆さんの本音というか、素直な感想が記されるようになりました。その 1 例をあげると、

- ・ Very Good
- ・ 特大の冬瓜約 9k g に出会った
- ・ 味付け満点で、舌あたり満点とてもおいしい。デザートをいただく毎日が楽しみです。
- ・ 今日は天気は青空、出かけるのもすがすがしくお宮参拝(正月の)も気持ちよく一年のお祈りをした。
- ・ 毎日美味しいものを考えてくれて大したもんだ。

家族のおもい

母の思いに泣き笑い (朝日新聞 ひととき欄に投稿)

現在、主人の母は 93 歳。認知症があり、歩行も困難で、週 4 日、宅老所のデイサービスを利用しています。最初は「私の行く所ではありません」と渋々でしたが、今では毎日でも行きたい様子が伺えます。

でも、気に入らないことがあると、「うるさい」とテーブルをたたいて周囲を困惑させてしまいます。職員の方々に相談すると、「それがお母さんのよ。気にしなくていいのよ」と優しくわたしのケアまでしてくださいました。が、「私の介護の仕方が悪いのかしら」という思いが、いつも心によどんでいました。

ある日、母が宅老所で書いて来るノートに「頭がもやもやする。だんだん頭がおかしくなってくる」に続けて「外は晴天、頭は曇天」と書いてあるのを見つけて、胸が痛くなりました。

母の気持ちが、ようやく理解できたように思えたのです。結婚以来、39 年間同居していたのに、とても恥ずかしくなりました。主人は「おふくろ、座布団三枚!」と笑い、私もつられて泣き笑いとなりました。お母さん、また「座布団三枚」の自分の気持ちを書いてください。楽しみに読ませてもらいます。そして笑います。